

此時も味かたの旗本の貝太鼓の聲を聞て、懸引兵略をつくすを見れば、俗にいふかゆき所へ手をあてるがごとくにて、いさぎよく目をおどろかす、

〔發心集〕美作守顯能家入來僧事

實ニ道心アル人ハ、カク我身ノ徳ヲカクサムト、過ヲアラハシテ貴マレン事ヲ恐ル、ナリ、若人
世ヲ遁タレドモ、イミジクソムケリト云レン、貴ク行由ヲ聞ント思ヘバ、世俗ノ名聞ヨリモ甚シ、
此故ニ有經ニ、出世ノ名聞ハ、譬ヘバ、血ヲ以テ血ヲ洗ガ如シト説ケリ、本ノ血ハアラハレテ落モ
ヤスラン、知ラズ今ノ血ハ大ニケガス、愚ナルニアラズヤ、

〔關八州古戰錄 十七〕豆州下田ノ兩城沒落事

秀吉公聞召シ、嚮ニ吾儕打回テ海面ヲ巡見セシ時、彼若ヲ見及シガ、是ヲ攻撃シニハ、人數モ多ク
損害シ、輒クハ乗捕リ難カラシ、俗ニ云眼ノ上ノ疣、腹心ノ病、是ナリ、所詮燒討ニナサシメント心
懸リニ思タルニ、臨軍不俟君命ト云ル兵法ノ詞ヲ、左馬助會得シテ、克クコソ仕ナシタレ、今ニ始
メザル嘉明ガ翔カナ、

〔松永道齋聞書 上〕されば口にあまきものは必命の毒ぞ、良薬は口に苦きぞ、又良薬に似たる砒霜
斑猫といへる毒薬あり、能心得よ、此心を以、人を忘れ、我氣に應じたる者を使ふ時は、秦の趙高、玄
宗の楊貴妃、近くは石田、如此心得る事第一也、

〔源氏物語 横笛 三十七〕さていましづかに、かの夢は思ひあはせてなん聞ゆべき、夜かたらずとか、女房
のつたへにいふことなりとのたまひて、おさく御いらへもなければ、うちいできこえてける
を、いかにおぼすにかと、つゝ、ましくおぼしけるとぞ、

〔日本書紀 欽明 十九〕二年七月、百濟聞安羅日本府與新羅通計、謂任那曰、昔我先祖速古王、貴首王與
故旱岐等、始約和親、式爲兄弟、未審何緣、輕用浮辭、數歲之間、慨然失志、古人云、追悔無及、此之謂